

題目 対立的な状況が原子力発電所稼働の是非の判断に与える影響  
—シナリオ実験による議題設定フレーミングの検討—

氏名 田原 真之

指導教官 大沼 進

ある問題について合意形成を行う場面において、その問題がどのような枠組みで議論されているかが重要となることがある。問題の説明のされ方や、議題設定の方法など、どのような枠組みで議論するかによって人々の問題に対する認識が大きく異なってしまうと、集団として適切な合意を得ることが非常に難しくなってしまうためである。本研究では対立的な状況を想定した議題設定によって、人々が問題をどのような議論の枠組みでとらえるのか、そしてそれが意思決定にどのように影響するのかをフレーミング効果の知見を手がかりにして検討する。その際、藤井・竹村(1999)の焦点化仮説に基づいて、既存のフレーミング研究ではあまり行われてこなかった Gain・Loss フレームの同時操作を行う。具体的にはメリットとリスクが同時に高まる状況と、メリットとリスクが高まらない状況を想定する。

シナリオ実験を用い、原子力発電所の稼働への賛否を尋ねた。回答者は計 271 名であった。シナリオは原子力発電所の稼働によるメリットとリスクを紹介するもので、市や電力会社と住民などのステークホルダーが対立している状況を議題設定した条件とステークホルダーを想定しない条件の 2 条件、および原子力発電の稼働によりメリットとリスクが高まる状況に焦点化した条件と高まらない状況に焦点化した条件の 2 条件、計 4 条件を被験者間比較として設定した。シナリオを読んだ後には、熟読できているかを調べるためシナリオの内容の自由再生課題を行った。

結果は、議題設定の効果と焦点化の効果のいずれも賛否の判断において有意差は見られなかった。本研究に先立って行った研究では、統制条件と比較して議題設定条件で有意ではないものの賛成の割合が低下していた。しかし、本研究においては議題設定条件のほうが賛成の割合が多かった。一概には比較できないものの、自由再生課題の有無がその一因ではないかと考えられる。本研究では自由再生課題によって被験者が十分に論点を吟味したため安易に反対か賛成かの態度を示さなかったという推測である。このことから意思決定における議論の枠組みによる影響を熟考によって抑制することができる可能性が示された。ただ、賛否を従属変数とした重回帰分析の結果、リスクベネフィット評価とフレーミングとの交互作用は見られたため、間接的な影響は残っていることが明らかになった。